

福 議 委 号
平成25年11月28日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

総務教育常任委員会
委員長 熊 野 茂 夫

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、平成25年9月19日福島町議会定例会9月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第147条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

調 査 事 件	(6) 所管関係施設・事業等の町内視察について			
調 査 期 間	平成25年10月23日～平成25年10月24日(2日間)			
出 席 委 員	10月23日(水)		10月24日(木)	
	委員 長	熊 野 茂 夫	委員 長	熊 野 茂 夫
	副委員 長	川 村 明 雄	副委員 長	川 村 明 雄
	委 員	佐 藤 孝 男	委 員	佐 藤 孝 男
	〃	滝 川 明 子	〃	滝 川 明 子
〃	平 野 隆 雄	〃	平 野 隆 雄	
〃	溝 部 幸 基	〃	溝 部 幸 基	
欠 席 委 員	なし		なし	
委員外議員	なし		なし	
席 説 明 員	町 長	佐 藤 卓 也	副 町 長	竹 下 泰 弘
	副 町 長	竹 下 卓 弘	総 務 課 長	中 島 和 一
	教 育 長	盛 川 和 一	総 務 課 参 事	小 鹿 彦 誠
	総 務 課 長	中 島 和 一	財 務 課 長	本 庄 富 憲
	総 務 課 参 事	小 鹿 彦 誠	学 校 教 育 課 長	飯 田 富 憲
	財 務 課 長	本 庄 富 憲	学 校 給 食 セ ン タ ー 長	阿 部 志 広 氣
	学 校 教 育 課 長	飯 田 富 憲	生 涯 学 習 課 長	
生 涯 学 習 課 長	阿 部 志 広 氣			
議 会 事 務 局 職 員	議 会 事 務 局 長	石 堂 一 志	議 会 事 務 局 長	石 堂 一 志
	議 会 グ ル ー プ 次 長	前 田 勝 元	議 会 グ ル ー プ 次 長	前 田 勝 元
	議 会 グ ル ー プ 主 事	澤 田 元 氣	議 会 グ ル ー プ 主 事	澤 田 元 氣

[委員会意見]

調査事件 6 所管関係施設・事業等の町内施設について

(平成 25 年 10 月 23 日・24 日調査)

本委員会が所管する町政執行方針の取り組み状況の確認及び関係施設・事業等の課題や問題点を把握するための町内視察を実施した。1 日目は、町政執行方針の取り組み状況の確認を行い、2 日目は、防災備蓄倉庫建設工事、吉岡砕石原石採取現場、旧吉岡小学校周辺用地、道の駅の現地視察を午前中に終え、午後から検討会を行ったところであり、その結果における内容は次のとおりである。

【論点とした調査項目】

1. 町政執行方針の取り組み状況

(1) 後継者育成と定住促進

① 定住促進ちょっと暮らし事業について

当該事業に関しては、町・企業・団体・住民が一体となって受け入れ体制を構築し、ちょっと暮らしを体験する方を孤立させないようにしっかりサポートすることが不可欠であることを本委員会では指摘している。しかし、本年度におけるサポート体制等のソフト面の具体的な検討は進んでいないとの説明であるが、町は重要な計画（事業）と位置付け、本委員会の意見も含めて今後検討するとしている。ちょっと暮らし**事業での**住宅建設ありきではないとのことではあるが、本気で事業を進める意思があるのか疑問である。

また、町長から空き家バンクに登録している住宅をちょっと暮らし事業に直ぐにでも利用できるとの答弁があり、委員が再確認したところ、勘違いで使えないことから発言を訂正する申し出があった。そもそも空き家バンク制度とちょっと暮らし事業の目的は違っていて、それを一緒くたに考えて安易に発言することは空き家バンク登録者に対しても誤解を与えるものであり、不勉強であることを深く反省すべきである。

なお、町長は今後の当該事業については、実施するしないを含めて検討すると述べているが、第 5 次総合計画策定の中できちんと方向性を決めて議会及び町民に示していただきたい。

(2) 産学官の連携

① 産業活性化ビジョンについて

当該ビジョンは各課全般にわたる重要な内容のものであり、第5次総合計画への登載や関連を含め、ビジョンの進行状況を議会に示していただきたい。

また、ビジョンの大きな柱のうち「道の駅」については、福島町の未来につながる検討をしていくためにも「新しい道の駅」の構想が見える形での提案に期待する。

(3) 高齢者等の交通確保

① デマンドバスの実証運行について

本年度の実証運行の9月分の利用状況は、前年の47人から112人と増加していることや10人乗りのハイエースで十分対応が可能との説明であり、適切な実証運行に努めていただきたい。また、来年2月末までの実証運行期間の実績と本年度の5つの改良点の検証結果を議会に示していただきたい。

(4) 防災関係

① 津波避難計画策定及び防災計画について

東日本大震災から既に2年半が経過している中で、日本海側の津波想定データの公表遅れ等により、当町の津波避難計画やハザードマップ作成が遅れていることに一定の理解はするものの、総体的に計画策定等が遅れていることは留意しなければならない。こうした中で、町はハザードマップを平成27年度に策定する予定としているが、津波避難計画策定と並行し、早期に策定すべきものとする。議会では、東日本大震災後の防災については、できるものから順次進めるべきとの考えであり、このことも踏まえて早期に対応していただきたい。

(5) 広報・広聴について

① 広報紙等の内容充実について

広報紙ふくしまのタイトルロゴをローマ字表記に変更し、議会だよりとの差別化を図ったとのことである。広報紙及び議会だよりは、町民との情報共有（発信）の根幹とするもので、あえて議会だよりとの差別化が必要なのであれば、事前に協議した中で対応すべきものとする。タイトルロゴは広報紙の最も重要な要素の一つであることから、ローマ字表記の在り方も含めて再検討していただきたい。

② 移動町長室について

本年度の移動町長室は時間的に余裕のない中での開催であったことから、参加した町民の改善を求める意見も踏まえ、次年度以降の開催を検討してい

ただきたい。

（６）行政運営の効率化について

① 行政の効率的運営と機能的な組織運営について

これまで職員の定数管理については、町の財政計画により人件費抑制の中で退職者の補充を極力少ない人数とし新規採用を抑えるとともに、臨時職員を増やすことで行政運営をしてきたのが現状である。こうしたことから、正職員の年代構成に大きなばらつきが生じ、この数年で管理職の大半が退職する状況にある。このため、当町の適正な正職員数を客観的に積み上げて、職員体制の充実と人材育成に繋げる検討をしていただきたい。

（７）学力向上対策について

① 保護者への家庭学習の働きかけについて

児童生徒の携帯電話やスマートフォンなどの利用を、学校や保護者と連携し悪影響がでないよう取り組んでいただきたい。

（８）健やかな心と身体の育成

① 「いじめ」の問題について

携帯電話等によるいじめにも十分に注意しながら、命の大切さと健全な青少年時代を過ごしていくよう指導していただきたい。

② 横綱の里に相応しい相撲普及について

保育所や幼稚園の幼児期の段階から相撲に親しみ小学校に繋げるような取り組みをしていただきたい。また、引き続き専門的な指導者の人材確保に向けて取り組んでいただきたい。

（９）社会教育活動

① 通学合宿について

本年度からの新規事業であり、参加した児童の感想や実行委員会の総括等も踏まえ、次年度に向けて取り組んでいただきたい。

（10）芸術文化・文化財

① 文化財保存について

無形文化財の松前神楽を道指定から国指定に向けた活動に道教委や北海道連合保存会と連携しながら、積極的に協力体制を整えて対応していただきたい。また、**そのための**用具等の改修計画の策定に関しては、財源等も含めて当該団体とも十分に協議を行い進めていただきたい。

(11) 社会体育活動

① 生涯スポーツについて

人口減少に伴い体育館とプールの利用者も比例して減少している。町民の健康保持からも生涯スポーツの掘り起こしに向けた検討に期待する。

2. 関係施設・事業等の町内視察

(1) 吉岡砕石原石採取現場

現在の原石採取現場は、松前町との境界に近づいており、町有地の効率的な利用と作業面の安全を確保するためにも、境界となっている道有林を保全区域として利用したいとの説明を企業から受けた。当該企業と町の関わりは大きく今後の企業育成の視点からも、町は道有林の利用等について全面的な支援をしていただきたい。

(2) 旧吉岡小学校等周辺用地

予定地内にある公共施設のうち体育館については、埋蔵文化財の保存・展示に利用したいとの考え方もあるようである。しかし、体育館の構造や老朽度の精査と合わせ、埋蔵文化財の保存・展示方法の方向性をきちんと整理した上で、今後計画する当該地区の総合的施設との関連も十分に協議しながら検討すべきものとする。

(3) 道の駅（特産品センター）

町の道の駅の所管は、国道所管の企画グループと実際の施設管理所管の商工グループの2グループが関係しているため、分かりやすく効率的にするため一つに集約することを検討していただきたい。また、現在進めている道の駅見直しに当たっては、財源対策等を含めて慎重に進めるべきものとする。